

八女の皆様へ

「八女」ブランドを世界に!

8つの政策集

八女育ち
の
34歳

みのはら
ゆうたろう

MINOHARA YUTARO



INDEX

目次

八女への想い.....	01
プロフィール.....	02
八女について	03
8つの政策	04
市民が主役！の市政を行う「八女」	05
すべての産業が元気で稼げる「八女」	09
教育や育児のための最高の環境が整った「八女」	13
医療・福祉が充実した「八女」	17
誰もが安心・安全に住むことができる「八女」	20
伝統・文化・芸術が盛える「八女」	23
多くの人を訪れる「八女」	25
環境先進都市「八女」	28



Vision

八女への想い

私は幼少期を八女で過ごし、地域の皆様に愛情いっぱい育てていただきました。

私にとって**八女は、ふるさとそのものであり、自分自身の「原点」**です。

私を可愛がってくれた方々が元気なうちに八女に戻って、皆様が希望を持てる八女を創りたい、**八女のために自分の人生を賭けたい**、そういう想いは、何も特別なものではなく、幼少期に自然と芽生え、これまで抱き続けてきた私自身の**「将来の夢」**でもあります。

八女の発展に貢献するため、経済産業省や農業大国オランダでの研鑽も積んできました。まだ若すぎる、そういったお声を頂戴することもあります。しかし、34歳という若さ、そして**何のしがらみもない立場**だからこそ、今様々な困難に直面する八女市を変え、守り、発展させることができると確信しています。

「会いに行ける政治家」を目指し、これから八女中を走り続け、市民の皆様との対話を続けてまいります。

皆様のご指導、ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます！

箕原 悠太郎

1995~



仁田原保育所にて

1999~



山村留学にて

2003~



久留米大学附設高等学校にて

2009~



北海道大学にて

2015~



経済産業省にて

2024~



八女のこどもたちと

Profile プロフィール

みのはら ゆうたろう

箕原 悠太郎 / MINOHARA YUTARO

1990年5月1日 福岡県大野城市生まれ(34歳)

[趣味] 溪流釣り・料理 **[好きな食べ物]** 鳥刺し・馬刺し・豚骨ラーメン

[座右の銘] 有言実行・目標高く腰低く

1995年家族で星野村に移住（仁田原保育所2年間・星野小学校1年間）

1999年山村留学に参加（仁田原小学校1年間）

[学歴]

2006年3月 久留米大学附設中学校卒

2009年3月 久留米大学附設高等学校卒

2015年3月 北海道大学 獣医学部卒

2024年4月 オランダ・ワーゲニンゲン大学 大学院卒

（農業・地域政策専攻 科学修士号取得）

[職歴]

2015年4月 経済産業省入省 経済産業政策局 企業行動課 係員

2017年6月 資源エネルギー庁 電力ガス事業部 原子力政策課 係長

2019年6月 産業技術環境局 総務課 課長補佐

2021年1月 （併任）同局 カーボンニュートラル実行計画企画推進室 室長補佐

2021年8月 内閣官房 新型コロナウイルス感染症等対策推進室 参事官補佐（出向）

2022年8月 オランダ・ワーゲニンゲン大学派遣（行政官長期在外研究員制度）

2024年4月 大臣官房秘書課2024年6月経済産業省退職

About 八女について

八女市は、八女茶をはじめとした多種多様な農産物、盛んな林業、伝統工芸、豊かな自然など、**類まれなる資源に恵まれています。**

これらの資源を国内外に発信し、トップセールスで売り込むことで、**「八女」ブランドを世界の中で確固たるものとし、その結果として産業の活性化や税収増、人口増加といった果実**を市民の皆様にお届けすることを目指します。

2006年～2010年にかけて、1市3町2村が合併し、八女市は福岡県でも2番目の面積を誇る大きな市となりました。それぞれの地域持つ独自の資源や魅力をさらに発展させるとともに、**「オール八女」として、八女市全体が真に一丸となってその魅力を世界に発信していく**ための取組を推進します。



Policy

「八女を世界へ」を目指す

 8つの政策



01 市民が主役！の市政を行う「八女」

継続か変革か。政治が変われば八女市が変わる。市民が不在の政治から脱却し、市民中心・市民目線の「開かれた市政」を実現します。



全ての支所における
「移動市長室」の開設

こども・若者世代が
直接政策提言をできる仕組みづくり

職責にとらわれず、市職員が創造性を
最大化できる制度・環境づくり

スマホ1台で完結する
行政サービスの充実

Policy | 01 市民が主役！の市政を行う「八女」

● 市民の皆様との対話の機会の充実

広い八女市のすべての地域の声を聞くため、市長自らが各支所に出向き、地域の方々と座談会を行う「移動市長室」を定期的開設するほか、八女市内の行政区長会をはじめとした地域の各種団体との個別座談会を定期的開催するなど、現場の声に常に耳を傾ける「会いに行ける」、そして「会いに行く」市長を目指します。

● 市民参加型の市政の実現

ただ市民の皆様のお話をお伺いするだけではなく、実際に市民の方が政策提言をできる機会を充実させます。例えば、八女市こども議会を発展させ、若手世代が実際に政策提言をできる環境を整える他、市の総合計画をはじめとした重要施策の策定に、市民の皆様が直接参加できる仕組み（官民合同の政策ワークショップの開催など）を構築します。

Policy | 01 市民が主役！の市政を行う「八女」

● 市職員の創造性を最大化する環境作り

外部人材の積極登用や、職員の自己研鑽のための研修制度を充実させ、市役所全体のレベルアップを図るとともに、減点方式ではなく加点方式を主眼においた人事評価制度への見直しによって、すべての職員が、働きやすく、最大限の能力や創造性を発揮できる環境を整えます。また、「八女創造予算プロジェクト（仮称）」を創設し、所属部署の職責にとらわれず、八女市の発展のために職員自らが自由に政策を策定し、実行できる制度を構築します。

● DXの推進による市政の効率化と住民サービスの充実

現行の「八女市デジタルトランスフォーメーション推進戦略」をさらに発展させ、スマホ1台で完結する行政サービスの実現など、デジタル化を通じた市政の効率化をさらに推進します。さらに各支所単位でデジタル化に対応した職員を配置することで、デジタル化の流れから誰一人取り残されない八女市を目指します。

Policy | 01 市民が主役！の市政を行う「八女」

● 支所の機能強化(人員・予算)

1市3町2村が合併した八女市は、地域ごとにそれぞれ特徴や課題があります。地域の実情に応じたきめ細かい行政サービスを実現するため、各支所の人員配置や予算面での支所の裁量を拡大し、地域で解決できる課題は支所を中心に地域で解決することを基本とした市政を実現します。

● SNSを活用した市政の積極的発信

YouTubeやFacebook、LINEなど、市民の皆様にとって身近なツールを用いて市政情報の発信をきめ細やかに行い、市政をより身近なものとするための施策を推進します。また、八女市のPR・広報戦略を官民共同で策定し、オール八女で市政含めた八女の魅力を国内外に発信するための体制を整えます。

02 すべての産業が元気で稼げる 「八女」

経済産業省やオランダで培った経験とネットワークを最大限活用して、市民の皆様がより豊かな生活を実現します。



「食」「輸出」を軸とした
八女ブランドの更なる価値向上

新しい木質材料やカーボンクレジットを
活用した稼げる林業の実現

地場産業を起点とした
「八女ビジネスコンテスト」の開催

50年後を見据えた
高付加価値な企業誘致の推進

Policy | 02 すべての産業が元気で稼げる「八女」

● 「食」を通じた八女ブランドの更なる価値向上と農産物の輸出拡大

八女茶は日本を代表するブランドではありますが、まだまだ国内の知名度を上げる余地は大きく、八女茶ブランドの更なる発信強化が必要です。また八女茶に留まらず、八女の農産物の魅力を、JA等とも協力しながら国内外に強く発信し、八女産農産物の更なる知名度の向上と消費拡大を図ります。また有機栽培の推進や関連した認証の取得、効率的な物流システムの構築等、海外の販路の確保などに取り組むことで、八女産農産物の輸出拡大を進めます。八女の豊富な「食」を軸として、八女ブランドの認知拡大を進めることで、農業従事者の皆様の手取りの増加を目指します。

● 農業の生産性向上と耕作放棄地の有効活用

八女の経済基盤は何より農業です。八女の伝統的な農業技術とスマート農業をはじめとした国内外の最新の農業技術を組み合わせることで、八女の様々な農作物の生産性向上を目指します。一方で、特に山間部に集中する、集約化や最新の農業技術の活用が難しいような農地については、新たな高付加価値作物の導入や、兼業農家・週末農家の誘致といった取組によって、耕作放棄地の再生・地域の活性化を進めます。

Policy | 02 すべての産業が元気で稼げる「八女」

● 稼ぐ林業を実現

林業をより稼げる産業に進化させるため、集約化、効率化などの施策を推進するとともに、CLTなど新たな木質材料の活用も通じて、林業の収益性を向上させます。また、木材の生産のみならず、CO₂の吸収量を販売することにより利益をあげる「カーボンクレジット」の活用によって、木の育成途中でも利益をあげられる林業の仕組みを確立し、八女を現代林業の先進地とすることを目指します。

● 商工・地場産業の活性化

商工業者の経営基盤強化や事業承継支援のため、立地、金融、PR等、多面的な支援策を実行します。また既存企業のネットワークや空き店舗を活用した創業(スタートアップ)支援を拡大し、八女からユニコーン企業(※)を誕生させることを目指します。このような多面的な取り組みにより、商工業の活性化を通じた町の賑わいを実現します。

※ユニコーン企業：設立年数は短いものの著しく成長した非上場のベンチャー・スタートアップ企業

Policy | 02 すべての産業が元気で稼げる「八女」

● 伝統工芸産業の更なる発展

仏壇や提灯、和紙といった伝統工芸品の国内外への販路拡大のための支援策をさらに充実させます。また、既存の伝統的な製品に加えて、伝統工芸技術を活用した新たな特産品創出を後押しすることで、新たな顧客獲得と伝統工芸産業の収益性の向上を目指します。また、産業としてだけでなく、「文化」や「芸術」としての伝統工芸の位置づけを確立することで、八女の伝統工芸の更なる認知度や価値の向上を目指します。

● 企業誘致の推進

雇用創出のため、高い付加価値を生み出す企業の誘致を進めます。その際、産業が空洞化しないよう、農林業関連や環境関連企業など、八女ならではの企業誘致に注力します。同時に、地域の地場産業の労働力が奪われることがないように、企業誘致の際は工場や事務所だけでなく労働者も同時に八女に移ってもらい、八女全体の労働人口が増加するよう、移住者の住居確保等の環境整備を進めます。

03 教育や育児のための最高の環境が整った「八女」

充実した教育制度や手厚い育児支援を通して、八女の将来を担う人材への投資を進めます。



デジタル技術（DX）を活用した
教育の質の向上

ふるさと納税を活用した
教育の経済的負担軽減

通学・通園ネットワークの拡充による
居住地以外への通学促進

給食やこども食堂での
地元農産物のさらなる活用促進

Policy | 03 教育や育児のための最高の環境が整った「八女」

● ^{ゼロ}待機児童0の達成と山間部の保育所の活性化

旧郡部の保育所は児童数が減少する一方で、八女市の一部では保育所の待機児童が発生しています。待機児童が発生している地域にある既存の保育所の収容能力を向上させるとともに、居住地域以外の保育所にも通える環境を一層整備し、待機児童0を達成するとともに、山間部の保育所の活性化を目指します。

● 経済的な子育て負担の軽減

物価上昇が続く中で、子育てのための経済的負担を少しでも軽減することが、出生数の増加や、ファミリー層の移住増加に繋がります。ふるさと納税等の自主財源の一定割合をこどもの給食費や医療費等、子育て支援に充当することを規定し、限られた財源の中で最大限子育て世代を支援する制度を確立します。

Policy | 03 教育や育児のための最高の環境が整った「八女」

● 教育DX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進

地域ごとに生徒数の大きく異なる八女市内の小中学校で、均一かつより高い教育を提供するためには、教育のデジタル化、効率化が不可欠です。学校の通信環境の整備やタブレット端末等の学習ツールの普及に加えて、教職員等の研修を充実させるなど、ハード・ソフト両面から教育DX(※)推進のための支援を行います。

※教育DX：学校が、デジタル技術を活用して、カリキュラムや学習のあり方を革新するとともに、教職員の業務や組織、プロセス、学校文化を革新し、時代に対応した教育を確立することです。



Policy | 03 教育や育児のための最高の環境が整った「八女」

● 通学路の整備

山間部は狭い道路が多く、平坦部でも歩道が無いなど、通学・通勤時間帯には子どもと車の距離が近くなる危険な多く通学路が存在しています。通学路となっている道路の拡張や歩道整備、路肩のカラー舗装などを早急に進めるとともに、教育関係者や警察、地域住民のネットワークを充実させ、子どもの安全確保を進めます。

● こども食堂の拡充・支援

こども食堂は、地域の子ども達の精神的・肉体的サポートとなるのみならず、地域のコミュニティ強化のために不可欠です。地域の方々の善意に依存した形ではなく、行政からの支援を充実させることで、こども食堂を持続的なものとするとともに、その取組をさらに拡大させていきます。

04

医療・福祉が充実した

「八女」

市民の皆様全員が安心して医療・福祉の恩恵を受けることができる八女を目指します。



公立八女総合病院に関する
議論への住民参加と透明化の促進

多世代交流拠点の整備による
健康寿命の延伸

経済的支援拡充による
介護スタッフの確保

関係者の連携促進による
ヤングケアラー対策の充実

Policy | 04 医療・福祉が充実した「八女」

● 公立八女総合病院の移転・建て替えに関する議論の活性化と透明化の実現

現在、公立八女総合病院の移転・建て替えに関する議論が進められていますが、何より重要なことは、十分な医師数の確保です。医師数の確保のための方策を久留米大学医学部と十分に協議し、医師数を確保するための公立病院のあり方に関する議論を加速させます。また、広域的な医療体制のあり方について筑後市や広川町等の近隣自治体ともよく協議するとともに、その意思決定過程を透明化させるため、市民の皆様に向けた説明会や意見交換会の場を各地域で定期的に設けることで、しっかりと市民の皆様議論の経過をご説明します。

● 農福連携の推進

農福連携とは、障害を持つ方が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組です。農福連携に取り組むことで、障害を持つ方にとってやりがいある就業の場を生み出すとともに、人手不足や従事者の高齢化といった八女の農業の課題の解決に繋がります。

Policy | 04 医療・福祉が充実した「八女」

● 介護・認知症対策の推進

高齢化が進む八女市において、介護の負担軽減や認知症対策は喫緊の課題であり、現役世代が仕事や日々の生活に集中できる環境を整えることが重要です。介護サービスの質の向上のため、介護スタッフの質・量の向上や、家族介護者への支援を強化します。また、認知症対策は早期発見が重要であるため、地域の医療機関とも連携して、認知症の早期発見を推進します。

● 健康寿命の延伸

日本人の平均寿命が年々長くなっている今、介護を受けずに健康に暮らすことができる健康寿命を延ばすことが重要です。定期的な健康診断や健康教室を充実させて病気の早期発見に努めるとともに、高齢者の社会活動参加を促し、高齢者が心身共に健康を維持できるまちづくりを進めます。

● ヤングケアラー対策

家事や家族の世話・介護等の負担のために、学業や友人関係に影響が出てしまう「ヤングケアラー」への対策は、将来の八女を担うこどもの教育・育成のために不可欠です。八女市におけるヤングケアラーの実態を早急に明らかにするとともに、学校や病院、民生委員等が連携してヤングケアラー対策に取り組むための環境を整備し、ヤングケアラーへの支援をより充実させます。

05

誰もが安心・安全に住める 「八女」

広い八女市で、誰もが安心・安全に暮らせる街づくりをおこなっています。



防災・減災対策の推進

公共ライドシェアの推進

ジェンダーレス対策室
(仮称)の設置

移住者へのサポートの拡充

Policy | 05 誰もが安心・安全に住める「八女」

● 防災・減災対策の推進

災害を未然に防ぐことはもちろんのこと、災害は避けられないものとして対策を講じることも重要です。現状の流域治水対策や地震対策を見直すとともに、公共・民間問わず施設の耐震・老朽化対策を強化することで、市民の安全確保と新たな施設の建築による支出の抑制を両立しながら、災害に強いまちづくりを進めます。さらに、AIを活用した道路・河川状況の監視など、最新技術を取り入れた防災対策を推進します。

● 公共ライドシェアの推進

一般ドライバーが自家用車で乗客を有償で運ぶ「ライドシェア」の取組が今般全国的に進んでおり、交通空白地解消のため、自治体等が主体となって行う「公共ライドシェア」の仕組みも整備されました。面積が広く、また高齢ドライバーが増加する八女市において、ライドシェアの普及は地域の移動手段の充実に繋がるため、人材・事業者支援や他自治体との連携等、早急にライドシェア普及に向けた取組を進め、2025年中の市内全域での導入を目指します。

Policy | 05 誰もが安心・安全に住める「八女」

● ジェンダーレス対策室（仮称）の設置

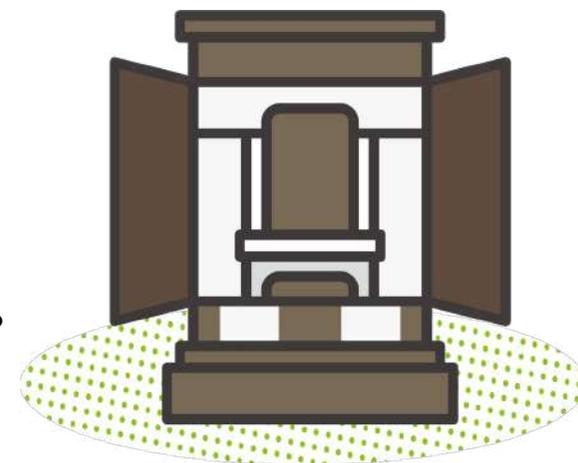
ただ女性を要職に登用するだけでは、女性の社会進出を阻む問題の解決には繋がりません。性別を問わず、誰もが平等かつ自由に活動できる八女市を実現するため、ジェンダーレス対策室（仮称）を設置し、八女市におけるジェンダーレス実現の現状・課題を整理し、普及・啓発や教育の充実、関連事業者への支援を行うとともに、市役所が積極的に女性登用を進めるなど、ジェンダーレスな八女を実現します。

● 移住者へのサポートの拡充

八女市内への移住者数の増加を目指し、引っ越し・移住費用の支援等、既存の制度を拡充させることに加え、さらなる普及・啓発活動に取り組みます。また、移住者と地域住民の交流会を実施するなど、移住者のスムーズな地域社会への適応を後押しするための施策を展開します。

06 伝統・芸術・文化が盛える 「八女」

八女の文化資源を守り、さらに発展させる取り組みを行っていきます。



教育、後継者育成プログラムの充実

伝統ある街並みの保全・活性化

文化施設のさらなる充実と
新市庁舎の活用

Policy | 06 伝統・芸術・文化が盛える「八女」

● 教育、後継者育成プログラムの充実

こども向けおよび後継者向けに行われている文化・芸術関連プログラムの内容をさらに充実させ、受講者数の増加を目指します。また保存会等への支援も充実させることで、一地域に留まらない、八女市全体を挙げた文化継承のための取組を推進していきます。

● 伝統ある街並みの保全・活性化

福島や黒木町といった伝統的な街並みの保全事業をさらに充実させるとともに、空き家の利活用や新規創業を推進し、伝統建築や街並みを活用した中心市街地のさらなる活性化を目指します。また、補助金ありきではなく、住民の経済社会活動を通じた街並み保全が進むよう、文化活動と経済活動が両立する街づくりを、官民一体となって推進します。

● 文化施設の更なる充実と新市庁舎の活用

八女の伝統や芸術を発信するための拠点としての文化施設の展示内容を見直し、充実させることで、来訪者数の増加を図るとともに、認知度の向上を図ります。また新市庁舎を八女の文化発信の拠点として整備し、SNS等も活用して積極的に八女文化を国内外に発信します。

07 多くの人が訪れる 「八女」

八女は様々な観光資源があり、地理的にも恵まれている場所と言えます。これらの強みを積極的に発信し、移住者や交流人口の増加を目指します。



近隣自治体を巻き込んだ
筑後観光経済圏(仮称)の形成

インバウンド(外国人観光客)
の呼び込み

空き家や公共施設の再生・活用

ふるさと納税・
企業版ふるさと納税の拡大

Policy | 07 多くの人が訪れる「八女」

● 近隣自治体を巻き込んだ、筑後観光経済圏(仮称)の形成

八女市内はもちろん、筑後地域は様々な観光資源があり、県内の観光客数もパンデミック後、回復・増加傾向にあります。また、筑後圏は、福岡都市圏、熊本、大分とも接しており、そうした九州の地理的中心に位置する利点も活かし、筑後が九州の観光や経済の拠点となる「筑後観光経済圏(仮称)」の形成を目指し、八女市が主導して近隣自治体との議論を進めます。

● インバウンド(外国人観光客)の呼び込み

新型コロナウイルス感染症も落ち着き、再び増加した外国人観光客を積極的に八女に呼び込みます。外国人向けのPR・広報活動を充実させるとともに、市HPの多言語対応化や各支所へのインバウンド対応職員の配置、インバウンド受け入れ対応のための事業者支援を充実させます。

Policy | 07 多くの人が訪れる「八女」

● **空き家や公共施設の再生・活用**

新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に、テレワーク需要が拡大し、会社所在地とは異なる場所で生活しながら仕事をする方の数が増えています。空き家を移住者の生活拠点として整備するとともに、廃校などの公共施設をシェアオフィスや共有の作業場、芸術活動の拠点等として使えるように改装・整備し、八女以外で仕事をする方の移住も推進します。

● **ふるさと納税・企業版ふるさと納税の拡大**

現在増加傾向にあるふるさと納税・企業版ふるさと納税の納税金額を一層伸ばすため、さらなるPR活動や返礼品の充実に取り組みます。現在1年約13億円(令和4年度実績)の納税額を、4年で30億円まで伸ばすとともに、安定的に税収が維持できる体制を構築します。

08 環境先進都市「八女」

地球温暖化対策や循環型社会の形成の重要性が日に日に高まっている中、豊かな自然に恵まれた八女市で環境政策に積極的に取り組み、日本を代表する環境先進都市に進化させます。



カーボンニュートラル(脱炭素)に向けた取組の推進

農地や林地の多面的価値の評価の推進

グリーンツーリズムの推進

河川の環境保全の推進

Policy | 08 環境先進都市「八女」

● **カーボンニュートラル(脱炭素)に向けた取組の推進大**

二酸化炭素の排出を実質0にする、カーボンニュートラルの取組が世界中で求められています。自治体単位でのカーボンニュートラル実現を目指す「ゼロカーボンシティ」の表明をいち早く行い、森林吸収源の確保や太陽光、バイオマスをはじめとした再生可能エネルギーの活用など、積極的に二酸化炭素排出削減の取組を推進することで、八女の農林業やエネルギー産業の発展、新産業の創出、地域のレジリエンス（災害対応力）強化につながります。

● **農地や林地の多面的価値の評価の推進**

山間部の農地や林地は、農作物や木材の生産のみならず、地下水の涵養や生物多様性の維持等、様々な機能があります。農林業による収益だけでなく、そういった多面的機能を適切に評価することで、八女の環境維持のために重要な農林地を積極的に支援していきます。

Policy | 08 環境先進都市「八女」

● グリーンツーリズムの推進

八女の豊かな環境を活用したグリーンツーリズムを積極的に推進し、八女のPRを行うとともに、交流人口や移住者数の増加、景観保全を目指します。グリーンツーリズム推進のため、観光協会やJA、民間事業者の連携を強化します。

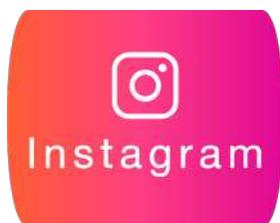
● 河川環境保全の推進

商内水面漁業のさらなる推進や住民の住環境向上のため、矢部川や星野川といった河川の環境保全のための取組をさらに充実させます。そのため、浄化槽の設置や下水道普及に一層取り組むとともに、河川を活かした都市計画を進め、河川沿いの緑地帯や公共スペースの整備を進めます。

SNSで
つながろう!

八女での日々の活動を発信中!

フォロー・チャンネル登録お願いします!



みのはらゆうたろう後援会事務所

〒834-0031 八女市本町 2-227

☎ 090-8227-0208

✉ minohara.yame@gmail.com

みのはらゆうたろう 🔍

H P

